
マイナス金利相場

2014年9月12日

笑い雲研究所

上昇トレンド

【チャート面】

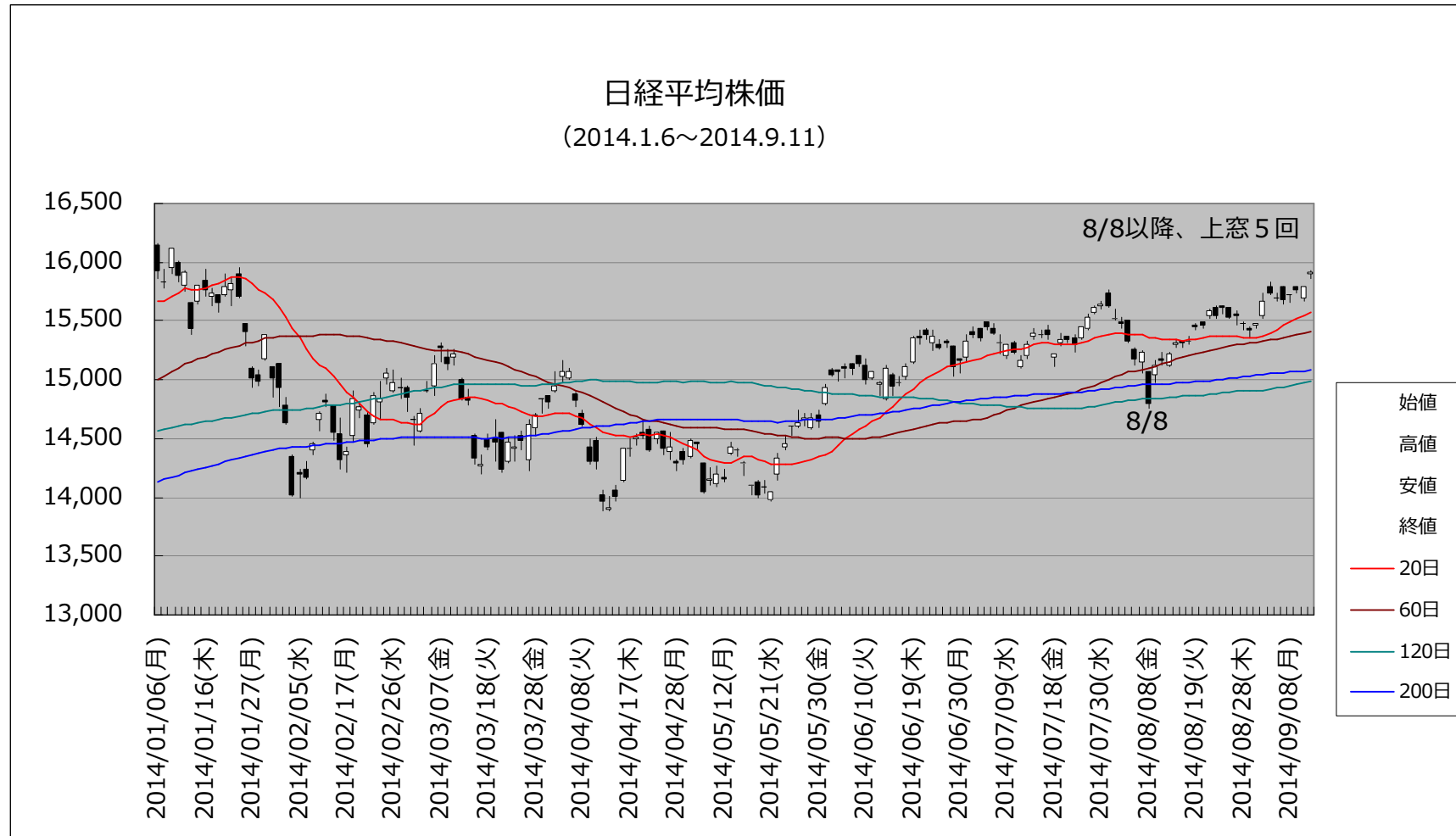
先週、7/31高値から8/8安値までの下げ幅1,005円に対して…、

- ・ 15,089円 (1/3戻り)
- ・ 15,138円 (38.2%戻り)
- ・ 15,256円 (1/2戻り)
- ・ 15,375円 (61.8%戻り)
- ・ 15,424円 (2/3戻り)
- ・ 15,759円 (全値戻り)

9/3に全値戻りを達成、チャート上では上昇トレンドです。

昨日時点で、8/8安値以降、**上窓(当日安値 > 前日高値) 5回**、**下窓(左記と反対)ゼロ**です。

上昇トレンド、8/8以降上窓5回



日本経済新聞社日経平均株価データより筆者作成

今週は騰落レシオが一時買われ過ぎゾーン入り

【過熱指標面（最近5日間）】

過去5日間の動きは・・・

- ・ 騰落レシオ(25日平均) : 107% → 122%、買われ過ぎゾーン入りしました。
- ・ R S I (14日平均) : 67% → 70%、こちらは平熱推移でした。

先週のこのコーナーで「週後半に、騰落レシオが買われ過ぎゾーン入りする可能性あり」と記載しましたが、9/10に127%、9/11に122%を記録、買われ過ぎゾーン入りしました。今後5日間横ばい相場だった場合、騰落レシオは週前半、R S I は週後半に買われ過ぎで推移する可能性があります。

別途、有料メルマガにて、

- ・ 上昇トレンドの場合
- ・ 横ばい推移の場合
- ・ 下落トレンドの場合 の

今後5日間の騰落レシオ、R S I 試算と、今後に関するコメントを掲載しております。

毎週月曜日、ブログ本体記事でご紹介しています（株式市場体温測定とシミュレーション）。

今週は騰落レシオが買われ過ぎゾーン入り

【最近10取引日の動き】

年月日	終値	前日比	騰落率	出来高	年初来高値	年初来安値	騰落レシオ	RSI	空売り比率
2014/08/29(金)	15,424.59	-35.27	-0.23%	2,059,370,000	77	11	100.05%	68.55%	30.1%
2014/09/01(月)	15,476.60	52.01	0.34%	1,811,980,000	132	8	101.41%	69.37%	27.8%
2014/09/02(火)	15,668.60	192.00	1.24%	2,442,320,000	174	5	103.18%	73.86%	27.3%
2014/09/03(水)	15,728.35	59.75	0.38%	2,488,020,000	158	8	105.22%	72.68%	27.5%
2014/09/04(木)	15,676.18	-52.17	-0.33%	2,102,350,000	82	9	104.04%	68.62%	29.2%
2014/09/05(金)	15,668.68	-7.50	-0.05%	2,026,820,000	60	14	107.23%	67.95%	28.4%
2014/09/08(月)	15,705.11	36.43	0.23%	1,777,440,000	97	15	113.32%	64.62%	29.7%
2014/09/09(火)	15,749.15	44.04	0.28%	1,896,900,000	111	8	117.18%	66.15%	29.6%
2014/09/10(水)	15,788.78	39.63	0.25%	1,946,370,000	87	8	127.31%	62.35%	29.8%
2014/09/11(木)	15,909.20	120.42	0.76%	2,131,870,000			122.83%	70.70%	

出所：日本経済新聞社日経平均株価データより筆者作成

<使用している用語の意味及び使用期間>

- ・ 騰落レシオ：25日間の東証一部上昇銘柄数÷下落銘柄数。80%未満で売られ過ぎ、120%超で買われすぎとされます
- ・ 空売り比率：売り注文全体に対する空売り注文の割合。30%超で近々反転上昇、20%未満で近々反落するとされます
- ・ RSI：上げ幅合計÷（上げ幅合計+下げ幅合計）×100。30%未満で売られ過ぎ、80%超で買われ過ぎとされます

本資料は株式をはじめとするリスク資産およびこれらを取り巻く経済環境に関する現状解説を目的としたもので、金融商品勧誘を行うものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成したのですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。

信用取引倍率改善、評価損益率悪化、業者先物買い残増加

【需給面】

9/5時点の二市場信用取引倍率は、**5.95倍**（前週 5.97倍）と**4週連続の改善**でした。

直近ピーク、8/8の6.71倍から、0.76ポイントの改善です。

買い残は**-0.26億株**（45.04億株→44.78億株）

売り残は**-0.02億株**（7.54億株→7.52億株）

売り残は減少でしたが、買い残も減少で、その結果、需給改善となりました。

9/5時点の二市場信用取引評価損益率は、**-7.30%**（前週 -6.71倍）と**4週ぶりの悪化**でした。

先週は、日経平均株価は**+244円と上昇**でしたが、評価損益は悪化しています。

クレディスイス(CS)日経平均先物建玉は、

買い残 8/15現在 **13,059枚** → 8/22現在 **15,307枚** → 8/29現在 **16,579枚** → 9/5現在 **17,247枚**

前週比**+668枚と買い越し**で4週連続買い越し、この間累計+4,990枚です。

クレディスイス同様短期売買で市場価格に影響を与えるとされるニューエッジも、

+1,713枚（現在残高14,970枚）と、買いポジションを積み上げています。

(9/5は共に9月限・12月限合計です)

マクロ悪い中でのマイナス金利相場

【総括】

先週の当コーナー表題が
「折り返さず、切り返し」

9/2(火)がターニングポイントだった可能性について記載、またこれに先立ち、8604野村HDが8/21に大きな陽線(始値<終値)で上昇しており、今回の切り返しを示唆、今月一杯から来月中旬頃を目処に、マクロ（景気指標）が悪い中で株価は上昇する可能性が出てきた点を述べました。

昨日の日経平均と8604野村HDの上昇により、このトレンドが、より明確になってきました。マクロが悪い中での、「マイナス金利相場」といえそうです。

終点は来月上旬～中旬頃か

【総括】

今回の上昇は、マクロが悪い中でのもので、金融相場的な色彩となっています。

まず8604野村HDが先導、日経平均が先週から本格始動、今週日銀のマイナス金利による短期国債購入で上昇基調再確認・・・そのような展開です。

今年の上昇サイクルを点検すると、

三角持ち合いを上離れた5/22が起点 → 7/31高値15,759円が終点

期間は2カ月強でした。

今回の起点は、下窓が終了した後の安値をつけた、8/8(457円安の日)としたいと思います。仮に、今回も前回同様の期間上昇すると仮定すると、終点は10月上旬～中旬頃となります。

次回の日銀金融政策決定会合は、10/6と10/7

今、東京もNY市場も、ともに騰落レシオが120%前後まで上昇、

この勢いが上記決定会合あたりまで続くかどうか・・・？

このあたりがポイントとなりそうです。